

週刊 女川湾海況速報 (No.52)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

7 月 16 日から 19 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

観測点



小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して全層で水温は上昇したが、塩分は下降。経時的に表層（0m）の水温は下降傾向にあるが、底層（6m）では上昇傾向。一方、塩分は全層で下降傾向にあり、表層では期間を通じて 30 以下を示し、特に 17 日と 19 日の下降が顕著。表層の塩分の下降は湾外から侵入した低塩分水と 18 日の降水の影響と推定。

水深 [m]	7月16日 (火)	7月17日 (水)	7月18日 (木)	7月19日 (金)
0	18.6 (28.3)	18.1 (25.7)	18.1 (25.4)	17.4 (24.0)
6	15.5 (33.0)	15.6 (32.9)	15.6 (32.9)	16.9 (30.7)

水温の単位は℃。*17日は水深5mのデータを使用。

②濁度：先週と比較して全層で上昇。期間を通じて底層に比べて表層で高く、16日には表層で、降水後の19日には全層でそれぞれ 4.0FTU 以上を示した。(単位は FTU)

水深 [m]	7月16日 (火)	7月17日 (水)	7月18日 (木)	7月19日 (金)
0	4.0	2.0	2.8	5.0
6	1.1	1.1	1.0	4.9

③溶存酸素：先週と比較して全層で下降したが、7~8mg/l 台を示した。経時的には期間を通じて表層で徐々に下降。底層では 18 日まで下降した後、19日に上昇。

水深 [m]	7月16日 (火)	7月17日 (水)	7月18日 (木)	7月19日 (金)
0	8.4	8.0	7.7	7.4
6	7.5	7.4	7.1	7.4

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 14.1~18.1℃、25.9~33.4 の範囲にあった。表層には塩分 30 以下の低塩分水が存在し、水深 0m と 5m の間に大きな塩分の鉛直勾配 (6.9/5m) を形成。濁度は 0.3~2.2FTU の範囲にあり、底層で最大。溶存酸素は 6.9~8.2mg/l の範囲にあり、底層で最小。

7月17日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	18.1	25.9	2.1	8.2
5	15.8	32.8	0.6	7.6
10	15.1	33.2	0.4	7.5
15	14.6	33.3	0.3	7.3
19	14.1	33.4	2.2	6.9

本データの利用については、
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp

までお問い合わせください。